

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

項目	項目数
理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。

また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 清谿園グループホーム どんぐり
(ユニット名) B

所在地
(県・市町村名) 鹿児島市中山町5217番地

記入者名
(管理者) 長野 良子

記入日 平成 20年 2月 10日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で地域密着型サービスの内容と役割を学び理解したうえで理念を作り安心した暮らしを支援している。		スタッフ全員で考案した理念を掲示し朝の申し送り時音読、常に念頭におき介護に従事している。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフ研修、朝夕の申し送り時気づきや注意点など伝達し日々実践に向けて取り組んでいる。		職員間で意見を言える環境づくりにこれからも取り組んでいき統一したケアを図っていく。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族には毎月のお便りや、家族会等で説明し伝えている。地域住民に対しては町内の行事等(町内清掃活動)に参加し当事業所の実践を伝えている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方よりお花や野菜を頂いたり防災訓練の時声掛けを行っている。		出かけた時など地域の方に必ず挨拶をするようにしている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入っており文化祭や清掃活動に参加している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	学校の研修等受け入れている。		保育園、学校の訪問や研修など地域との交流を図っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ研修において外部評価について内容を取り入れた研修を行いサービスの質の向上に努めている。		昨年度の評価後より手持ち金を個人持ちにしている。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度は町内会長の出席があり地域の行事等を聞いて参加している。		運営推進会議では自己評価の説明と結果を公表している。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターの職員の来所を受けたり又市の評価委員の研修の場を提供しサービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	機会あるごとに職員に説明しスタッフ研修でも取り入れている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設立しその中で討議を行い、スタッフ研修やミーティング等で説明防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前に面談と見学をして頂き契約時再度十分な説明を行っている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>細目に声かけし意見等言い安いような雰囲気づくりに努めている。</p>		<p>利用者の言葉や態度からその思いを察する努力を行い利用者本位の運営を心掛けている。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族への通信報告書、毎月の生活の様子を担当スタッフが記録したものを送っている。又カラーコピーした利用者の写真や出納帳のコピーを送っている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会を年1回実施し、又面会時に希望、意見等を言いやすい雰囲気作りに努めている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>スタッフ研修時に機会を設けている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状況やペースに合わせたローテーションを組んでいる。必要に応じて柔軟に職員の配置を考えている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者が馴染みの職員に支援を受けられるよう最小限に抑えてある。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や事業所全体の研修などを行い、働きながら現場でも育成している。	法人外での研修、法人全体での研修で発表、全職員での共有の機会を作っている。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くの同業者との情報交換や地域の勉強会への参加を行っている。	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員間でストレスにならないよう情報交換や意見交換のできる雰囲気作りをおこなっている。	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は職員の資格取得に向けた支援を行い各自が向上心を持って働けるように努めている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学に来て頂き本人が自分の気持ちを話すことのできるような挨拶や雰囲気作りに努めゆっくりと話を聞くことができるよう努めている。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	電話や訪問時、丁寧に話を聞き、納得され利用して頂く。	入所前に必ず本人、御家族とも訪問して頂くようお願いし不安なことや不安なことや困っていること等を聞くようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自宅での生活が可能と思える場合は、デイサービスやヘルパー支援等の利用の紹介をしている。		相談時、本人や御家族の思い状況等を確認し、改善に向けた支援の提案や他施設の紹介を行っている。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に訪問して頂き、不安なく生活して頂くように信頼関係を築くよう行っている。		出向いて状況の確認を行ったりしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	語り合いの中で本人の性格、身体状況を把握し、日常生活の中でより信頼関係を深めていくよう支援している。時には利用者からいたわりや励ましの言葉掛けをもらうことがあります。		利用者は人生の先輩であるとう考えをこれからも共有しお互い協働しながら穏かな生活を送れるよう支援して行きたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の希望も尊重し本人や職員の思いを折にふれきめ細かく伝え本人を家族と一緒に支えていく。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族も参加して頂けるような行事を行い家族の訪問しやすい雰囲気を作っている。面会時の雰囲気作りやコミュニケーションを図るよう努めている。		家族と一段とコミュニケーションを図り家族の訪問協力をお願いする。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔話を聞いてその当時の人の話をしたり以前住んでいた近くにドライブに行ったりする。一人ひとりの生活習慣も尊重しケアに役立てている。		現在の取り組みを継続していく。知人の訪問などの時昔のことを伺ったり一緒に話をしコミュニケーションを図り継続的な交流が出来る様にしている。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が関わり利用者同士が和やかな雰囲気の中で生活し助け合っているよう配慮している。		利用者同士が助け合い楽しめるようなレクリエーション、会話等を考え実施している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設へ入所後も訪問するなど、又施設での行事等の案内を行っている。		他施設に入所の利用者の家族に会いにお連れしたりしている。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で声をかけ言葉や表情行動等で真意を察するようにしている。		入所前の面接時、家族や本人から暮らしぶりや嗜好等詳しく情報収集を行うようにしている。入所後は生活習慣や行動をさりげなく観察している。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ミーティング、全体研修を利用センター方式を活用している。入所前後面接、面会時家族とコミュニケーションを図り情報や意向など聞いている。		利用後も本人の話や知人の訪問時生活歴等の把握に努めている。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日誌の記録やチェック表を活用し把握を行っている、又記録をする時振り返り再確認している。		行動や動作、発語等から総合的に把握するよう努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時、カンファレンス、全体研修、ミーティング時の意見を活用し介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化や退院後等検討見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしぶりや状態変化等個別に記録、申し送り、記録ノートを活用している。勤務前の確認は義務付けている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	終末期に宿泊を希望され対応する。食事也希望に合わせて対応する。		緊急時や家族の希望により受診、通院の支援は柔軟に対応している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員やボランティア、保育園、幼稚園等へお願いし交流を図り、研修も受け入れている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	フットケア等の訪問サービスの紹介があるが本人や家族の希望がない。近隣のグループホームと交流を図っている。		当事業所の温泉を希望される方は利用されている。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議には必ず出席して頂いている。訪問も受けている。今の所、権利擁護を必要とされる方はいない。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族に承認を得、かかりつけ医に相談適切な医療を受けている。		

鹿児島県 清谿園グループホームどんぐり

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	状況に応じ専門医や近隣の医師等に相談、治療、支援を受けている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当デイサービスや主治医等の看護職員に相談し日常の健康管理を行っている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時面会の時や電話を利用し病院関係者との情報提供や交換を行い早期退院に努めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の希望を聞いている。本人や家族、かかりつけ医と良く話し合い全員で方針を共有してきた。		途中、家族や本人の気持ちの変化に注意を払い支援してきた。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	理学療法士の指導やかかりつけ医、近隣の医師の協力を得、勉強等で検討している。		終末期に家族、医師、看護スタッフを交えて検討や準備をしスタッフの勉強会も開いてきた。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	フェイスシートを活用、文書や話し合いで情報交換し困った時は電話でもいつでも対応している。		家族と十分な話し合いをしてきている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	常に前向きな姿勢で職員間も気づいたときに注意しあえる関係作りに努め尊厳を大切にし勉強会でも再確認している。	日々の関わりの中で利用者や誇りや、プライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	何事も強要せず、昔話を取り入れ本人の希望や力を把握、個人に合わせた支援を行うことに繋げている。	利用者の希望、関心、嗜好など個人をよく把握理解し日常生活の中でケアを生かしていく。
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	外庭、地域への散歩等行きたい気持ちの時にできるだけ行くようにしている。	できるだけ個性のある支援を行っている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	本人の望む店に行きたいと希望される方は対応している。	外出の時などこれまでの生活のあり方にできるだけ合わせたおしゃれ等本人、家族の望みに合わせ職員と一緒に考えている。
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	野菜切やお皿拭き等一緒にしている。お皿を重ねたり、テーブル拭き等自主的に行っている。	利用者、職員が同じものを一緒に食べて同じテーブルを囲み楽しく食事できるよう雰囲気作りを大切にしている。利用者と一緒に採ってきた野菜を調理している。
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	お茶はテーブルに準備してある。おやつ等は食べ込まないよう気をつけているが各自居室におやつを持っている方もあり誤嚥等に気をつけている。	職員は一人ひとりの嗜好を理解し本人の状態をみながら楽しめるよう支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用しオムツ外しを行っている。		オムツ外しのできた方もありこれからも気持ちよく排泄し可能な限りトイレで用を足すことを継続していく。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	状態や本人の希望により入浴を行っている入浴を拒む人に対し言葉かけ、アプローチに工夫している。仲のよい方と一緒にであればスムーズに入る方もある。		希望する時間に対応しているが清潔保持も念頭においている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個人により夕方の生活リズムにあわせ就寝時間がほぼ決まってきたが本人のその日の体調により変わりおしゃべりや温かい飲み物など対応している。		なるべく日中の活動を多くし一人ひとりの体調等に合わせ考慮、安眠できるようにしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	らっきょう作りや干し柿作り、遠出、地域の行事参加等楽しみごとを取り入れて行っている。		季節の良い秋・春にお弁当を作り一日遠足を行ったが、これからも楽しみや役割を見つけ「本人が生きることへの支援」を深めて行きたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望のものの買い物に同行したり代理購入等、家族の了解のうえ行っている。		施設にて管理しているお金であっても買い物に出かけた時は自分で支払うようにしている。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候の良い時はほとんど毎日散歩へ出かけ、冬場も希望に沿って戸外に出かけている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一日遠足や園の行事、地域の行事等機会を作り支援している。		車や車椅子を利用し戸外へ積極的に出かけています。日常的に散歩もおこなっています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の都合を考え電話をしたり、お便りも書かれており支援している。		電話利用中他の利用者に声が聞こえないよう気配りをしている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	笑顔で挨拶を行い「いらっしゃいませ」の気持ちを常に持ちコミュニケーションを図り居心地良く過ごして頂いている。		家族や人により居室で過ごすのを好まれる方、デイルームで皆さんと過ごすのを好まれる方等対応も考え行っている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会活動を設け、スタッフ研修等で取り組んでいる。		研修や日々のミーティングの中で話し合い言葉の拘束等ないよう点検している。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けずに安全に暮らせることの大切さを認識しており、チャイムやセンサーで利用者を監視することもなくオープンにしている。		安全に配慮し自由に庭に出れるよう暮らしを支援している。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間状態の確認や声掛けを行い24時間利用者の安全に配慮している。日中見守りや様子を察知できやすいように工夫し援助している。		職員は同じ空間で記録し事務作業を行っている。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態を把握、一律に片付けず検討し管理している。		全てを取り除くのではなく使用時の注意など危険因子は何か等確認している。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者を見守りやすい位置にいて状態を察知、事故防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	開設時またはスタッフ研修時看護師の指導を行っている。		夜間を想定し応急手当等対応方法マニュアルを整備、周知徹底を図っている。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を受け防災訓練等行いおこない地域への声掛けを行っている。		避難経路、消火器等の確認を行っている。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	状態変化等に応じ状況を説明するなど、日頃よりコミュニケーションを図り抑圧感のない暮らしに努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝のミーティング、夕方の申し送り等でしっかり情報の共有をおこない早期対応に努めている。		日頃の状態を良く把握し表情の変化や異常に早く気づくよう努めている。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療関係、薬のケース記録を作成しており新規の方や薬の変更時必ず全員に説明し理解している。		医療機関や看護職員に記録物情報伝達を行い連携を図れるようにしている。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	必要と思われる利用者に対してはイン・アウトチェックを行なっている。食物や飲料、運動を常に考慮した生活に取り組んでいる。		排便トラブルをおこさないよう常にスタッフが状態把握に努めている。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	支援している。		スタッフ全員が口腔ケアの重要性を理解し一人ひとりに応じた歯磨きの手伝いをしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や嗜好、栄養のバランス、飲水等考え一人ひとりに対応献立も栄養士にチェックをお願いし指導を受ける。		食が進まない時は摂取量チェックを記録し献立も工夫をしている。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがあり実行している。		全職員が学習予防している。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理道具等清潔消毒乾燥に努め買い物は隔日に行い新鮮で安全な食材と管理に努めている。		食材が無駄なく新鮮で安全であるよう努めている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は常に開放している。玄関先やアプローチに季節感を演出している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日光の強い時はカーテン等を利用している。季節感は常に取り入れ居心地良く過ごせ不快な音にも注意している。		色、光、臭い、音に注意しながら季節感のあるものを活用し四季を味わってもらっている。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳部屋のコタツ、椅子等使用している。		

鹿児島県 清谿園グループホームどんぐり

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より持ち込んでいただき使い慣れた家具や仏壇を置き居心地良く生活されている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝必ず換気、温度調節に気をつけ利用者の状況にも合わせこまめに行っている。		外気との温度差にも注意している。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやトイレの場所等安全自立した生活が送れるよう工夫がしてある。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の目印等自分の居場所が解るようにしてある。夜のみポータブルトイレを使用、位置にも注意している。		どうしたら自分でやっていけるのか状況に合わせ環境整備に努めている。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	気候の良い時は中央デッキでお茶やレクレーションを楽しまれている。		広い庭、畑を活用、車椅子の方も活動できる環境を作っている。

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

鹿児島県 清谿園グループホームどんぐり

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日々の暮しが楽しみや張り合いのあるものになるよう、記憶や出来る力を最大限活かして、自分らしく暮せるよう職員一人ひとりが学び利用者一人ひとりにハートのある支援を目指しています。又、人生の大先輩として尊厳ある自立へ向けたケアを行っています。